

第2回福光地域学校統合検討委員会（会議記録）

【日時】令和6年12月2日（月）開会：午後7時00分 閉会：午後8時28分

【場所】南砺市役所 別館3階大ホール

【出席委員】 齋藤 史朗 委員長 得能 金市 副委員長 渡邊 美和子 委員（代理）
高瀬 須美夫 委員 中田 健一 委員 高倉 寛明 委員
富田 新之介 委員 高田 智洋 委員 林 裕一 委員
嶋 潤之介 委員 石黒 梢 委員 森田 泰将 委員
海木 有紀 委員 日光 司 委員 戸成 博宣 委員
船藤 幸輔 委員 舘 英二 委員 坂本 博昭 委員
久恵 文子 委員 高田 公美 委員 水口 賢 委員
田嶋 原子 委員

【欠席委員】 平野 信一 委員

【事務局員】 教育長 松本 謙一 教育部長 氏家 智伸
教育総務課長 上野 容男 総合政策部こども課長 溝口 早苗
教育総務課副参事 山本 佳和 教育総務課副参事 金谷 諭
教育総務課主幹 山田 浩司

【会議要点】

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ 齋藤委員長
- 3 協議事項
(1) 福光地域学校統合案について

事務局から、福光地域学校統合案についてあり方検討委員会の提言書に沿い、3パターンを提案した。パターン1：小学校1校、中学校1校、パターン2：小学校2校、中学校1校、パターン3：義務教育学校を福光中学校校下1校、吉江中学校校下1校

- (2) 今後のスケジュールについて

1月中に、三つの小学校校区において、上記3パターン案について事務局が地元説明会を開催する。その説明会の後に各団体において意見をまとめ、次回開催する第3回検討委員会において協議を行うこととする。

- 4 次回委員会の日程 令和7年3月中を予定
- 5 副委員長あいさつ 得能副委員長

【会議記録詳細】

1 開会

2 委員長あいさつ

(委員長)

本日は、教育委員会から統合案及び今後の日程が示されます。資料を参考に、福光地域として将来にわたって最も望ましい方向性を見いだしていければと思っております。資料をもとに、それぞれのお考えご質問等を遠慮なく述べていただければありがたいなと思っております。

3 協議事項

(1) 福光地域学校統合案について

福光地域学校統合案を資料1と参考資料に基づいて事務局から説明

(教育長)

今日ここで一つに決めるということではありません。この後、各団体この案を持ち帰って、それぞれの団体で意見を集約してもらうための原案として、この案でよいかということを今日議論していただきたいと思います。

(委員長)

ただいまの説明について、ご質問ご意見がありましたらよろしくお願いいたします。

(委員A)

1ページの現行の状況について、福光南部小学校は統合になると、100人のうち、福光中部小学校、福光東部小学校にそれぞれ何人ずつ転入する予定ですか。

(事務局)

資料5ページ福光中学校区、吉江中学校区の上に福光東部小、福光南部小、福光中部小、福光南部小という形で各小学校の内訳が記載してあります。南部小は、校区が両方に分かれていますが、特認校制度を用いれば、現在はこちらでも学校を選べるという状況になっています。

(委員B)

この福光地域学校統合検討委員会は、令和11年に南部小学校が複式学級になるので、その5年前から協議を開始するということで、令和6年からスタートしたわけですが、統合の時期については、何年度くらいをイメージしているのか確認したい。

(教育長)

基本的には、5年後だと思っています。今回の場合は福光地域全体になるので、まず子どもたちにとって小学校2校、中学校1校の環境がよいのか、小中それぞれ1校がよいのか、または義務教育学校がよいのか。それをまず検討していただきます。次に、どの校舎を使うかを検討いただきます。その後に、この委員会で一番良いと思う統合時期を決めていただいかまいません。全ての子どもにとって一番良い時期であれば、小学校と中学校の統合時期がずれてもかまわないと思っています。方向性が決まりましたら、教育委員会から統合時期

について案を出したいと思います。

(委員B)

パターン2やパターン3を見ていたら、すぐに単級になりますので、ある年度で統合し、2、3年経ったらすぐ単級になるっていうのは、好ましくないのかなと感じます。

(委員C)

1 ページ目の統合案の前提条件の4番で、統合等に要する改修等の経費を検討材料としないというのは、今回の提出された統合案については、改修等の経費を考慮して検討していないということよろしいですか。今後、この委員会が進んでいくに当たり、そういったことも検討することになりますか。

(事務局)

今回の統合案を出すにあたり、改修等の経費は検討材料としていません。また、今後この検討委員会を通して、改修等の経費は検討材料としないという理解でかまいません。

(委員C)

大規模な増築はしないという話だが、パターン3で吉江中学校区は福光東部小学校校舎を義務教育学校として使用するとあるが、多分足りないのではないかなと思っています。福光東部小学校にはないような部屋が、例えば更衣室のような部屋が必要となったときに、増築するということは考えられるのでしょうか。

(事務局)

現在の校舎の中で対応可能だと考えています。場合によっては、入れる時期まで統合を先延ばしするという可能性もあります。必要な改修は行いますが、増築新築はしないというご理解をお願いします。

(委員C)

義務教育学校になった場合、校舎を一つにまとめる必要があるのかどうかというところなんですが、福光中部小学校と福光中学校、福光東部小学校と吉江中学校とは距離が結構近いので、分離型も可能なのかなと思います。

(事務局)

分離型ということも、基本的にはしません。

(教育長)

公共施設再編計画のなかでは、教育施設については無理に再編するということはないとされていますが、できるものをあえて二つ残すということは考えられません。一体型でいきたいと考えています。

(委員D)

義務教育学校について、一般的なメリットとデメリットを説明いただきました。つばき学舎と利賀学舎で具体的な意見が出ているのでしょうか。また、情報というのはお持ちでしょうか。

(事務局)

次回まとめて、お知らせしたいと思います。

(委員D)

城端地域の話も出ましたが、城端地域の考慮をしなければならないのでしょうか。並行して考えていくのは大変だと思いますが、城端が「ぜひ福光と一緒に協議したい」となった場合、こちらの意見をまた変えなければならないのでしょうか。

(教育長)

全体の学校のあり方検討委員会でも、まずは地域で決めることを優先するという約束になっています。したがって、妥協する必要はないと思っています。

(委員D)

例えば、先に城端地域が福光地域と一緒にやりたいと言ってきた場合はどうでしょうか。

(教育長)

その時点で、この検討委員会に話をもってきます。基本的にそれぞれの文化を大事にしていくという方針だったので、それで福光がノーと言えれば話にならないと思っています。ただし、そのほうが望ましいというのであれば、そういうやり方もあるのかもしれませんが。

一点資料の補足をします。教員数なのですが、資料には法定の教員数を書きました。小と中にしたら減るように見えますが、実際は、加配と言って、数人の教員が増えます。義務教育学校は、まず増えないというふうに思っただけならば。ですから、義務教育学校になると教員がたくさん来てよくなるという意味ではありません。全体の合計は、おそらく義務教育学校のほうが多いかもしれませんが、資料ほどに差はないということです。

(委員E)

まず数字だけで見ると、義務教育学校2校にした場合。今までと同じで、吉江校区と福光校区で、中学校にしても小学校にしても児童生徒数は変わらないですね。そうすると、パターン2のように、まず中学校を1校にして小学校を2校にすると、中学校で検討会をした際に次のような意見がありました。

この先、僕たちの子どもたち、あるいは若い子たちが、10年後とかに、例えば結婚したりした場合、市内に残ってくればよいのですが、それが砺波市や近場の金沢市に出てしまい、そこで家を建ててしまったりすると、正直、南砺市には戻ってこないことになります。富山県のなかでも高岡、富山、砺波など、もともと市のところに人が集まってしまい、南砺市が魅力のない市に思われてほしくありません。だから、親が子どもを育てる場合に、人数が減ったとしても、南砺市に育ててほしいというか、南砺市は、自然も豊かでとても良いところなので、学校統合についても、市にできるだけ人を残すような方向で考えていけたらと思います。空き家も増えていきますし、できるだけ、その家族単位で流出することを防ぐ、残ってもらえるように考えていってほしいと思います。

(教育長)

本当にそうしたいと、市も教育委員会も取り組んでいますので、また皆さんのアイデアを

教えてください。子どもたちがここで住みたいと思う教育をしたいと思っています。

さて、先ほどの学校の数についてですが、大きく分けると、2クラスあったらクラス替えができるということです。小学校は単級で、中学校はクラス替えがあればいいのか、全部クラス替えがあればよいのか、または、全部単級がよいのかというようなことも含め、福光の子どもにとって良い判断をしていただければというのは、このような趣旨であります。今後、皆さんの各団体の多くの方から意見を集約してもらう手続を踏みたいと思います。

(委員D)

もう一点、お聞かせいただきたいのですが、先ほど義務教育学校には分離型があるという話もありました。例えば、福光中部小学校と福光中学校で分離型で福光地域で一つの義務教育学校にするというようなパターンは考えてはいないのでしょうか。

(教育長)

いわゆる富山市の水橋地区のように、福光地域全体で義務教育学校を一つにする。それはもちろん可能です。

(委員D)

今は5年後を考えての協議ですが、また10年後かどうかは分かりませんが、同じようなことはまた起こります。先ほど言われたようにクラス替えの件がありますし、最初から1校にしておけば、延命措置ではないですけども、しばらくは2クラスないし3クラスぐらいで可能でないかなと思います。

(教育長)

委員の皆さんのなかでも同じように、福光地域の義務教育学校を1校にしたら良いという意見がありましたら、その案を第4案として追加し、地域に諮りたいと思いますが、いかがでしょうか。その場合、今すぐに一つの学校に全児童生徒を集めるには、校舎の規模的に難しいので、分離型でやるということになります。

(委員F)

保護者からは、そもそも30数年前に福光中学校、吉江中学校ができたときにも、その段階で一つにしておくべきではなかったのかというような意見も聞こえてきます。この先、南砺市が活気あふれるまちになることを間違いなく、皆さん望んでおられます。しかし、果たしてこの3パターンの中のどれかにしたとしても、20年後、30年後、また同じような話合いになるのではないかなと、若干危惧しています。

(副委員長)

私は、福光東部小学校の整備が終わり、そして中学校を2校で整備したときの桃野町長さんの時代に、「中学校を1校にしてください。部活動はなくなりますよ」ということも話をしたのですが、「今のうちに校舎は建てておかないと将来危ない」ということでした。ですから、おっしゃるとおり、子どもたちに対して本当に良かったのかどうかというのは疑問なところがあるわけです。現実には、30年はすぐに経ちます。ですから、30年前とはまた違ってくるんじゃないかっていう話も出てくると思いますし、今統合しておこうということ

も正論です。ただし、これは人口減少から始まった話で、こういう田園地帯で、個々の非常に素晴らしい教育環境を持ちながら、統合という形に持っていくかどうかということは、やはり決心しなければならないと思います。東京大学の養老孟司氏も、この少子化は50年後ぐらいでないと止まらないと言っています。やはり、子どもが中心です。ここをしっかりと議論しないとダメだと思います。教育長はどうお考えですか。

(教育長)

今の意見で言うならば、将来のために何かするというよりは、今を生きている子どものためにやっ払いこうというのは、まさに南砺市で考えていることです。今予想されるなかで、27年後ぐらいに福野中学校が新築しないといけない可能性が出てくると、その時にどの程度の人数になっているかで、その30年後のあり方を、まだその時に生きている子どもにとって一番良いものを考えれば、将来こうなるから今の子どもを犠牲にしてこうしようというのではなくて、今を起点に一番いい環境を作っていきたいというのが、教育委員会の考えです。全体のあり方検討委員会もそうでした。

(副委員長)

これは、一番コンセプトとして大事なことです。そうでないと、2回も3回もこのようなことをしないとはいけません。ここはやはり、確認していただきたいと思います。

(委員長)

確かに、ここに出ている数字というのは今生まれている子どもたちの数ですから、その将来、来年何人生まれるかは、それは予想でしかないわけですから、検討の資料としては、現在の子どもを見ていくべきだというのは、おっしゃるとおりだと思います。

(委員H)

今、出ていない案ですが、私はかねてから思っていることがあります。個人的な意見ですが、中学校は、今、城端地域も案として福光地域と統合しても良いというような意見も出ていと聞いています。児童生徒の少ないところからだんだん危機感を持ち、どこかの地域にくっつかなきゃみたいな感じになっていきます。これが南部小学校の場合は、もう統合すると分かるとは言っていますが、それが中部小学校、東部小学校と同時にするのか、それともどこかにくっつくとか、そういうような進め方でいいのかどうかというのは、私はとても疑問に思っています。小学校は、公共施設再編の方向性を無視して申し上げると、できれば地域に残すべきだと思います。地域に小学校は残すということは、提言書でも書かれていて、福光の場合は複数あるので、こういう議論になっているということも承知していますが、地域の環境を思うと、本当は、中部小学校も東部小学校もあったほうが良いと単純には思います。ただ、中学校は、部活動も苦肉の策で拠点校にしていますけれども、それもすっきりした解決案では決していないと思っています。中学校の場合は、義務教育学校の賛否もちょっと関係あるのですが、いずれは高校に行くので、地域だけに縛られない社会性を育むことが、中学校の環境として一番大事なことであると思っています。そうすると、例えば、ちょっと乱暴な案かもしれませんが、中学校を市全体で2つぐらいにして括っていくとか、そうい

うことを案として考えると、施設の問題が先に来るんでしょうけれども、将来を考えて、また児童生徒が少なくなると、近いところからくっついていくみたいな感じになると、地域の引っ張り合いというか、綱引きみたいなことも生じてきます。大人のそのような感覚もあり、子どもも「小さいところになるとなんだか大きいところにくっついていけないといけない」みたいな思考回路になります。もう少し、中学校を南砺市全体としてどうするかっていうことを考えていったほうが部活動なども成り立っていくでしょうし、そういう案は、可能性として考えていращゃらないでしょうか。私は、先に中学校は1校か2校にする案を出し、地域の小学校を残していきましょうという考えにするとすっきりするような気がしていました。その可能性があるのかないのか、皆さんどう考えるのかというのは、前提として議論すべきじゃないかなと思っています。

(教育長)

それについては、あり方検討委員会で皆さんが出された結論はこれだったわけで、委員の総意はこの方向だったので、これをお願いしたいということです。これは、あり方検討委員会の提言が一番子どもたちにとって良い方向じゃないかということです。

(委員 I)

皆さんご存知のように、南部小学校は、小矢部川を境に福光地域と吉江地域に分かれてしまいます。私も南部小学校の卒業生なのですが、大変悲しい思いをしました。なぜ、6年間一緒に過ごした仲間と離れ離れになる必要があるのかと。今、こどもの数が減ったからこそ別れてほしくないのです。あくまで子どもの意見です。6年生の意見を聞いていますと、吉江中学校に行くという声が多数聞かれます。そうすると自ずとパターン2に向かっているような気もするのです。このままですと、福光中学校に進む子がますます少なくなり、吉江地区にだんだん子どもが集まってくと。そのような方向にならないように、南部小学校が離れ離れにならないような環境をぜひ作っていただきたいのです。

(事務局)

南部小学校の卒業生が中学校で離れ離れになるというのは、以前は確かにそのとおりでした。しかし、特認校制度を使っていいただければ、皆さん一緒に学校に行くことも可能です。そういうことも含めて、この統合、学校数がどうあるべきかということを、皆さん意見を交わしていただければと思います。

(委員 B)

南砺市立学校のあり方検討委員会に参加していた者として、少し意見を言います。実はその会で義務教育学校の話が出た時に、井口、平・上平、そして利賀地域が義務教育を選ばれたことは山間地域ということもあって、人数もある程度限られているので、それは仕方ないし、そのように住民が選ばれたので、それは良いだろうと。ただし、城端、福野、井波、福光においては、義務教育学校というよりも小学校は小学校で残しながら、そして中学校もどうやっていくかを検討して、義務教育学校とは別のこれまでのパターンを大事にして進めていけばどうかという話が出てきて、今日に至ったと思います。今話題になっているパターン

1からパターン3までと、そしてさらにパターン4で義務教育学校1校はどうかという話がありました、パターン4はなくても良いのではないかと思います。

(副委員長)

戦後から昭和、平成にかけて、教育制度のなかで中学校が一番単位になるというのは、明治以来の制度から変わっていないわけです。そうすると、中学校の校下単位をもっと大事にしないと滅びます。小学校はついてきます。中学校を何校にするかということを、先に議論しないとダメです。文部科学省のコミュニティスクールというのは、その話なのです。中学校というものをどう考えていくかということが、我々の使命だろうと思います。最終的には子どもたちのことなのですが、もう少し共通の理解がないと、もう少し創作するようなことはできないのでしょうか。

(委員長)

ここに出ているパターンというのは、考えられる案っていうことで出ているわけです。なので、先ほどのように、まだほかに良い案があるのではないかという意見もあったりするので、この後、次の資料2に関連し、今後の進め方を検討するなかで、今この議論も続けていけばいいかなと思います。

(2) 今後のスケジュールについて

(事務局)

資料2に基づき、今後のスケジュールを説明。

今ほど説明した、パターン1からパターン3について、福光地域の皆さんのできるだけ多くの方にお話を聞いていただいて、皆さんで考えていただきたいという部分がありますので、今後の進め方について確認させてください。まず1番、第1回の検討委員会での決定事項として、児童生徒にとって、より良い教育環境となることを第一に考え、学校統合を検討するという事を前回お話ししました。そのなかで、手順として、まず統合後の学校数を決める。次に、統合後に使用する校舎を決める。そして、統合の時期を決めるとしています。この手順を踏まえ、現在、学校統合後の学校数を決めるという段階ではありますが、本日3パターン提示させていただきました。パターン4があるということであれば、そのパターン4も含めて、教育委員会が福光中部小学校、福光南部小学校、福光東部小学校の3校区に行って説明をしたいと思っています。説明後にその場で意見交換会を開催していただければと考えています。日程は、令和7年1月後半を想定しています。会場につきましては、各小学校で行いたいと考えています。具体的な進め方としては、教育委員会から統合案の説明と質疑応答をした後に、団体ごとに教室や会議室に分かれて意見交換会をしていただいて意見聴取をしていただく形です。

日程調整については、各小学校のPTAと教育後援会を中心として行います。各小学校の校長先生には、12月20日頃までに開催日を決めていただき、年末には皆さんにご案内できるかと考えています。

福光地域全体で一つの団体又は中学校区についても、小学校の3校区とは合わない部分もありますが、調整の上、いずれか一箇所の会場に参加いただきたいと思います。

この3回の説明会で不足するようでしたら、個別の説明会も検討させていただきます。

(副委員長)

義務教育学校を複数の校舎を使うという方法について、これは校舎を考えた話ですから、ありだとは思いますが、その件について、これまで南砺市立学校のあり方検討委員会審議しているのですから、それを覆すような話が出た場合はどうするのでしょうか。せっかく5年間もやってきた話に対し、それこそ混乱起こします。このところをしっかりとルールを作ってください。整合性を持って出してほしいと思います。

(事務局)

あり方検討委員会の提言書に沿うと、この3パターンが考えられるということで、今回提案させていただいております。

(教育長)

それを含めて計4案にすべきなのか、それを今日決めていただきたいと思います。

(委員E)

第4案として義務教育学校を地域に一つ作るという案ありましたが、いきなり一つにするという案は、私も利口ではないと思います。部活動は今年度から地域移行が始まっていますが、それは、正直良くはないと思います。中学校が一つになれば、南部小学校の生徒が離れ離れになることはありません。中学校の人数も増えますし、そうしたら部活動が復活するということもあるのか、それは、南砺市全体の話なので、分からないですけど、小学校よりも中学校の人数を重点的に考えた方が良いというのは、今、皆さんの意見を聞いて思っています。義務教育学校にするという第3パターンがありまして、吉江中学校校下と福光中学校校下に作ったとしても、最終的には統合という形になって一つになるということがありえます。今現在は第4パターンはいらないと思います。

(委員J)

私は、前回の会議の中でも、東太美が2つに分かれるから、中学校を1校にしてほしいという要望を出していますが、その時期がいつかということが一番問題ではないかと思っています。中学校を先に統合してしまえば、一つは解決するのではないかと思いますので、早急に中学校を統合してほしいと思います。

(委員D)

パターン4については、選択肢は多いほうが良いと思ったので発言させていただきましたが、最初からパターン1, 2, 3どれにしましょうという決定方法のほうが、私たちも考えやすいと思うので、方向性を示してもらえたらと思います。

(委員長)

今、パターン1, 2, 3に絞ってというようなご意見だったと思いますが、この後、それぞれの校区で教育委員会からの説明の後、意見聴取を行います。今現在ここで示されている

資料がそれぞれの地区の皆さんに示され、そこで出てきた意見をここにいらしゃる方々で取りまとめ、次回、皆さんに示していただくという流れですね。

(事務局)

資料2の説明を最後までさせていただきます。統合案を説明した後に、その際に出た意見や、後日会議などを開いていただき、各団体等での意見集約をお願いしたいと考えています。それをもって、次回統合検討委員会の資料とさせていただきたいと考えています。意見集約については、2月末ぐらいまでに事務局の方へ提出していただければと考えています。

(委員J)

説明会には、地元の人に来ていただいてもよいでしょうか。

(事務局)

校区ごとの説明会ということになりますので、校区にお住まいの多くの方々に来ていただきたいと思います。

(委員H)

私の住む地区でもお子さんを持つ親御さんの意見を知りたいという声が多く、その意見を受け、団体としての意見を提出したいと思います。ですので、この説明会の後に団体としての意見をまとめるという段取りにさせていただいたほうがありがたいです。

(委員長)

説明会の後、参加いただいた方全員で色々な意見を出し合う機会を持ち、更にもう一歩進めるために、それぞれの団体で意見集約する場を持つということですね。

(教育長)

説明会の場では多様な立場の人の意見を聞き合うようなことを大事されるということですね。そちらのほうが良いと思いますので、そのようにします。

(事務局)

説明会には、皆様に提出した統合案の3パターンに絞ったものを修正し、これを説明会に参加される皆さんにお配りして説明をするということになります。

(副委員長)

各団体は、イニシアチブをとって、市に結論を上げていくということですね。それなら、我々は好きなことを言えます。それでよろしいか確認させてください。

(委員長)

説明会で出た意見に、プラスそれぞれの団体からの意見を取りまとめて委員会へ提出するということですね。

(事務局)

説明会当日に出されたご意見については事務局でまとめますし、各団体の意見も出していただくということをお願いします。各団体については、この3か所の説明会に出ていただければよいですし、独自でされる場合は、独自の会議をお願いしたいと思います。

(教育長)

説明会については、広く告知させていただきます。

(事務局)

全戸配布のなかに、3パターンも含めた概要的なものを載せ、これについて説明しますということを皆様にお知らせするような形にしたいと考えています。文面に具体的な統合案が出るのであれば、関心を持っていただけたと思います。

4 次回委員会の日程

(事務局)

次回の委員会については、令和7年3月中の開催を予定しています。

皆様にまとめていただいた意見について、次回、意見交換をするということを考えています。現時点で、すぐに統合案が決まるというようなことはないと思っています。

5 副委員長あいさつ

(副委員長)

結論が簡単に出るような会議ではございません。これで、地元に戻って説明する、又は当局が説明すると思いますが、これは本当にキックオフのキックオフでございます。色々な議論が出てくると思います。それは当たり前のことなので、やはり真摯に聴き、我々はそれを反映をして、当局にお願いするということでございます。

先ほども言いましたように、何よりも子どもが大事ですけれども、やはり財政的にも問題です。これは、経営が成り立たない話から来ているわけです。これは若い人たちも分かってほしいと思いますが、政府の行政改革とか、色々なものが出ています。そのようなことをしっかりと念頭において、我々は真剣に、後世の人たちに、子どもたちに憂いを残さないように頑張りたいと思います。

(閉会)